

51. 中枢神経疾患に対する高圧酸素療法 —特に医療施行中に発生した症例を中心として—

森山雄吉 滝沢隆雄 徳永 昭
 吉安正行 小島範子 谷口善郎
 金 徳栄 千葉和雄 田中宣威
 恩田昌彦 大川共一 代田明郎
 (日本医科大学第1外科)

昭和45年当教室において高圧酸素療法を開始して以来、昭和58年12月迄に治療された症例は344例で、そのうち中枢神経疾患症例は52例(15.1%)で、それらは一酸化炭素中毒によるもの35例(67.3%)、溺水、食物による窒息などともなる中枢神経障害6例(11.6%)、麻酔、検査などの医療施行中に発生した中枢神経障害6例(11.6%)、外傷による脳挫傷2例(3.8%)、並びに低血糖、脳炎その他による中枢神経障害3例(5.8%)であった。

今回はこれらのうちで、発症状況が比較的明確に把握出来る医療施行中に発生した中枢神経障害6例について検討を加えた。

症例の概要を述べると、1例は気管支造影施行中に心室細動が発生し、その後遷延性の中枢神経障害を来し高圧酸素療法を施行したもので、他の5例は麻酔中に発生した anoxia に起因する中枢神経障害であった。これらの症例に高圧酸素療法を施行したが、そのうち意識障害の改善をみたものが4例で、残り2例のうち1例は vesitable state で、他の1例は意識障害の改善がみられないまま、肺炎を併発し死亡した。

これら症例をもとに、原因、経過と高圧酸素療法の効果との関係について報告する。

52. 各種中枢神経疾患に対する高気圧酸素療法

秋野 実 中川 翼 馬淵正二
 岩崎喜信 阿部 弘 西田宣子
 後藤康之 古川幸道
 (北海道大学医学部脳神経外科, 麻酔科)

我々はこれまで虚血性脳血管障害に対する高気圧酸素療法(OHP)の有用性について言及してきているが、今回、中枢神経系全般についてその有用性を検討した。昭和54年7月より昭和59年6月まで過去6年間に、総数94例に実施した。脳血管障害67例の内訳は、虚血性脳血管障害が46例と最も多く、次いで破裂脳動脈瘤術後が12例、脳動静脈奇形術後7例、モヤモヤ病術後1例、皮質下出血1例であった。脳腫瘍症例は14例で全例、腫瘍摘出後出現した神経症状の治療のために実施した。内訳は髄膜腫6例、神経膠腫5例、下垂体腫瘍2例、類上皮腫1例であった。外傷は、硬膜外血腫による右片麻痺例1例であった。当科では、脊髄疾患に対しても積極的にOHPを行っている。9例の内訳は、脊髄動静脈奇形が6例、横断性脊髄炎1例、頸部脊椎間板ヘルニア術後例1例、癒着性くも膜炎による脊髄障害1例である。他に痙攣の意識障害出現例3例に行っている。虚血性脳血管障害に対するOHPの経験からは、発症よりOHP開始までの期間が短く、CTスキャン上のlow density areaがないか、あっても軽度のものに有効例をみとめた。また脳動脈瘤破裂、脳腫瘍等の手術施行後の新たな神経症状出現例に対しては、そもそも原疾患の病像部位等により差があるため一般的な検討は困難であるが、術後の欠落症状に対して、非襲的なOHPが、有用であることは明らかである。また脊髄動静脈奇形症例で、手術操作あるいは人工塞栓により、脊髄虚血が生じたと考えられる症例6例の検討からは、完全対麻痺例では効果が乏しく、不完全対麻痺あるいは単麻痺の症例では改善効果がみとめられた。

以上各種中枢神経疾患に対するOHPの有用性について報告する。